

法事ほうじのみやげ

京都

おじいさんが、親戚しんせきの法事に行った帰り道、おみやげのごちそうをぶら下げてよい気持ちで歩いていました。すると、いきなり川のそばに出ました。

（おかしいな。こんなところに川はなかったはずだがなあ）と思って、よくよく見ましたが、やはり目の前に川が流れています。

橋もないし、ぬれるのもいやだし、どうやって渡ろうと考えこみました。そのとき、ふと、

（これは、たぬきが、ごちそうをねらって、いたずらしているんじゃないか）と思いました。

そこで、おじいさんは、ふところからキセルを取りだして、火をつけました。そのとたん、川は、ぱつと消えてなくなりました。

やはり、たぬきのいたずらだったのです。

村上郁再話